

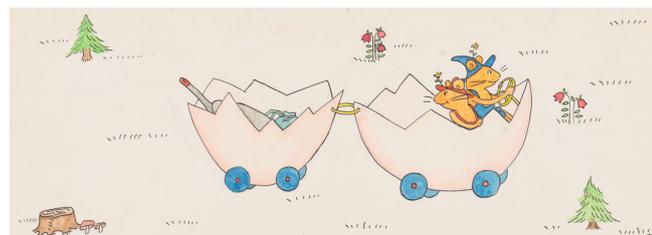
富山県美術館開館5周年記念 宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022 見どころ紹介

『ぐりとぐら』や『はじめてのおつかい』など

「こどものとも」の絵本原画約350点を紹介！

月刊「こどものとも」の創刊時の編集者、松居直氏は終戦後まもない時期に、幼少期に上質な美術体験を与える絵本づくりを目指し、画家や彫刻家など美術界で活躍する作家を始め、商業美術、漫画など幅広い美術・芸術分野から絵本にふさわしい作家を発掘しました。そしてその中からは、絵本を主要舞台として制作する絵本作家も育っていきました。

「こどものとも」は作家たちにとって、思い思いの手法や可能性を試すもう一つの表現の場となりました。これらの原画は、各作家の絵画作品としての美術的価値が高いだけでなく、創刊から60年以上経つ今、絵本という文化が、子どもから大人にまで広く親しまれるものに成長する歴史を語ってくれるものでもあります。



山脇百合子《ぐりとぐら》26-27頁 原画、
宮城県美術館蔵、1963年12月「こどものとも」93号掲載

絵本のできるまでが見えてくる！

絵本原画は印刷物としての絵本とは異なり、原画ならではの鮮やかな色彩や質感、技法や画材の組み合わせ、文字を掲載するために設けられた余白に加え、作家による絵の修正の跡などが見て取れます。

作家がどのようにその場面を描いていったのか、印刷工程上の色の指示や、文字を載せるために完成品の絵本には載らなかった背景の部分などから、絵本が出来上がるまでのプロセスを覗き知ることができます。

富山県美術館所蔵の作家による絵本原画も展示！

本展には富山県美術館にも作品が所蔵されている、秋野不矩や池田龍雄、佐藤忠良といった画家、彫刻家も名を連ね、絵画や彫刻にとどまらない彼らの創作活動の一端に触れることのできる機会となります。これまで目にしてきた作品とは異なる作家の一面と出会うことができるでしょう。



池田龍雄《ろくとはちのぼうけん》18-19頁 原画、
宮城県美術館蔵、1958年8月「こどものとも」29号掲載